



コメドールだより

HATO DEL YAQUE 編

【はじめに】

サンティアゴには「ジャケ川」という大きな川が流れています。（昔は川で泳ぐことができたそうですが、今は水質汚染の為、泳げないそうです。）

ジャケ川に架かる赤い大きな橋を渡り、田んぼや畑が続く田舎道を走っていくと小高い丘が見えてきます。その小高い丘こそが、今回紹介する「Hato del Yaque（アト・デル・ジャケ）地区」の入り口です。

都心から離れた郊外にあるアト・デル・ジャケ地区…周りは田んぼや畑、牧場がある一方で、中心部は多くの人々が住み、ちょっと迷路になっている場所も。都心とはちょっと違う雰囲気のある地区です。

初めて日本人を見た子ども達の反応

① China（中国人）：サンティアゴには多くの中国人が住んでいるので、「アジア＝中国」というイメージです。

② 髪を触る：ストレートヘアが珍しい為、「地毛なの？」と髪を触ってきます。「おおーサラサラ！」という反応が…。

③ 固まる：2、3歳の子どもの中には緊張して動かなくなる子ども…。

自己紹介

長江 茉莉子
(ながえ まりこ)

2016年度2次隊

職種：青少年活動

【外国人が珍しい！？】

児童福祉施設「コメドル」には、北米等からボランティア団体が支援に来ています。しかし、郊外にあるアト・デル・ジャケ地区のコメドルには交通手段が不便な為か、ほとんどボランティアが来ません。

その為、定期的に活動に来るボランティアは私一人の為、子ども達は楽しみにして待っていてくれます。



【写真①】「Mary~!!」(『マリが来たー!!』と子ども達が出迎えてくれます。)

最初は初めて見る日本人に、キョトンとして近づいてこなかった子ども達…今では皆が名前を呼んで来てくれるので、コツコツ活動してきて良かった…と実感しています(^^)

【郊外ならではの課題】

アト・デル・ジャケ地区は郊外の為、材料が買える店が限られています。都心まではグアグア（乗り合いバス）で片道 30 分程かかる為、子ども達の材料を用意するのにも一苦労。

その為、「安く・再利用」のできる図画工作教室が求められます。地元でも手に入りやすい材料や廃材などを利用したエコな作品作りを心掛けています。



【写真②体操用リボン】新聞紙+ストロー+色紙（本部で読み終えた新聞紙を再利用）

このコメドルは庭が無い為、外遊びができず室内で走り回ったり、テーブルの上で踊ったりしていました。体を動かす玩具を作って、普段とは違う運動遊びを♪



【写真③マラカス】トイレットペーパーの芯 + お米 + 色紙（古くなったお米を再利用）

最近3歳から5歳の子供が増えてきたので、簡単に作れる玩具を。音楽好きな子供達にピッタリなマラカス。たまに材料のお米を食べる子もいるので、「おやつじゃないよ〜。」と声掛けをしながら作りました。

【Dónde está Japón?(日本はどこ?)】

活動を始めた時は、興味を持って話しかけてくる子がいれば驚いて泣く子もいたコメドール…。最初は「China（中国）」と呼んでいた子供達も、活動を通して日本に興味を持つようになりました。

特に、自主活動で行った日本の子供達との文通交流会に参加した子供達は、中国と日本の違いを分かるようになり「Mary, Japón（日本）」と呼ぶようになりました。

日本とドミニカ共和国…とても離れているけれど、隊員が活動する事でお互いの国を知り合い、子供達の見聞が広がっていく…。見聞が広がれば好奇心も更に旺盛になり、子供達の成長の意欲となる。

広い世界を知った子供達は、どんな大人に成長していくんだろう…。将来の楽しみがまた増えました。



【写真④日本はどこ?】東アジアの地図を作って子供達に日本を紹介。

最初は座っていた子供達が地図を出した途端、立ちあがって集まってきました。

「日本は島国なの!? 中国大きい〜。」初めて見る東アジアの地図を見て驚く子供達。